

(議長)

次に、西海谷議員の発言を許可致します。

(議長)

「西海谷議員」。

「西海谷議員」

宜しくお願い致します。

私の方からは、この度3点のご質問をさせていただきます。

まず1点目、2016年度の観光客数の評価、分析、方策について、ご質問させていただきます。

本年6月に、渡島総合振興局並びに檜山振興局より、2016年度に訪れた各管内の観光客数を発表致しました。結果は森町を除く各管内で前年度比増となりまして、江差町は3.3パーセント増の34万5,800人の発表でございました。

それらの結果を踏まえまして、調査の結果を江差町としてどのように評価、そして分析をしているのか。また、その中でのインバウンドはどうであったのか。さらに今後の観光誘致をどのように進めていくのか、ご質問させていただきます。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

西海谷議員の1問目、平成26年度観光客数の評価、分析、方策についてのご質問にお答え致します。

第1点目は、本年6月に檜山振興局が発表した2016年度観光客入込数で、江差町は対前年度3.3パーセント増となった結果について、どのように評価、分析しているかのご質問でございます。

少し詳しくご説明致しますと、町内観光施設で入館者の1番多い開陽丸青少年センターについて、観光オンシーズンである4月から8月の入館者を比較しますと、2015年度1万1,443人、2016年度1万3,044人で、北海道新幹線開業初年度は、対前年度14パーセントの伸びでした。2017年度は1万2,336人で、対前年度5.4パーセントの減少と推移しています。

もう一つ特徴的なのが、個人客の大きな伸びと団体客の減少です。2016年度と20

17年度を比較すると、団体客が3,443人から1,533人と44.5パーセントの減少でしたが、個人客は9,601人から1万803人と12.5パーセントの伸びを示しております。また、加えてここ5年間の観光客総数には増減があるものの、個人客はほぼ毎年増加の傾向にあります。

これらの結果を見ますと、北海道新幹線開業初年度に大きな伸びを見せ、2年目の本年度はそれを維持出来てはいないものの、一昨年から比べて7.8パーセントの伸びがありますので、新幹線開業効果はそれなりに持続していること、また来町される観光客について、団体から個人へ大きくシフトしている傾向があると分析しております。

次に、インバウンドの動向について、です。インバウンド関連で、行政機関が実施する統計として、外国人宿泊者、宿泊客数の調査があり、その推移を見ますと、2014年度までは平均しますと30人程度でありましたが、2015年度では倍の、倍以上の80人、2016年度では3倍の127人の宿泊がされたという調査結果があり、総体として外国人観光客の入込は確実に伸びていると推測できます。

これらを踏まえまして、今後の観光誘致をどのように進めていくのか方策について、方向性について、でございますが、昨年江差観光コンベンション協会や開陽丸青少年センター等と一緒に足を運び、江差の地域資源をアピールした東京のエージェントは、今年度既に10回を超えるツアーを送り込んでいております。江差の食や郷土芸能を堪能する企画の売り込みに呼応したものであり、官民の連携によるエージェント訪問を今後も継続しながら観光地江差の魅力をしっかり伝えるべく取り組んで参ります。

また、2015年度に加盟した日本で最も美しい村連合と、今年度認定となった日本遺産は、観光誘客を図る上で大きなブランドです。

日本で最も美しい村は、小さな魅力ある自治体が連携し、ともにPRするメリットがあります。国内外で美しい村連合への社会的認知度が高まっており、その注目度が、注目度を活かして参ります。

日本遺産については、議員ご承知の通り、国が進めるインバウンド対策です。江差町のように歴史文化が生活の中に生きている町は、北海道においてほかに類が無いことから、訪日外国人観光客にとって大きな魅力を秘めており、先に報告させて頂いた通り外国人宿泊客の大幅な伸び、或いは姥神大神宮渡御祭時等において、街中でも外国人の姿を目にする機会が増えたのは、このような背景によるものと考えています。

一方では、町として外国人観光客を受け入れる環境整備が今スタートを切ったところというのが現状でございますので、本年6月に設立した江差町観光まちづくり協議会を始め、地域住民の皆様と共に議論を進め、日本遺産認定により国が、国から交付される補助金を最大限有効に活用しながら、積極的な誘客対策に努めて参ります。

もう1つの観点として、観光客全体の入込が団体に比べ個人が伸びていることから、個人旅行者、個人旅行客のニーズを十分把握した上で、旅行者の滞在時間の延長と消費を促すための体制整備を急ぐ必要があります。

いずれに致しましても、国内外から多くの方々に、ここ江差を目指して頂けるよう、地域資源を磨き、発信し、集える観光地づくりに向け、一層の取り組みを進めて参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

「西海谷議員」

はい。

(議長)

「西海谷議員」。

「西海谷議員」

了解致しました。あの、分析等も、ある程度しているようにお伺い致しました。

しかしながらですね、やはりそれを基に、さらなる戦略であったり、戦術であったり、具体的に継続して展開していくということが非常に大事かと思っております。日本遺産でも、日本で最も美しい村連合への加盟、それから先程言われた通り日本遺産の認定等、江差町の観光資源は非常に高いポテンシャルがあると思っております。

しかし、反面、その魅力を十分に表に発信して、発信しきれていないのかなど、このように感じております。今、各自治体では地方創生を踏まえ、地元を売り込む、いわゆるシティプロモーションに取り組んでおるところでございますが、江差町としても、例えば各課連携し、江差の魅力を売り込むチームのような、また営業部のような部署を作る。場合によっては、民間団体を含めた中での枠組みも含めてですね、そのようなポジションを作ることも大事かと思っております。

このことにつきまして、所管はまちづくりだと思えますけれども、お答えをお願い致します。

(議長)

どこで答えるの。「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

西海谷議員のご質問にお答えします。

議員ご指摘の通りですね、地方創生の取り組みの中で、今2020年のオリパラ、或いはそういう部分で選ばれる地域ということで、各地であるシティプロモーションというのが加速しているということがまず現状としてあります。

地方創生のキーワードというのがご承知の通り、自立性、官民共同、政策間連携、広域連携、この4つの視点でまちづくりをしっかりとしなさいというのが地方創生のキーワードでございます。

議員ご指摘のあの、江差町の庁内のその特命チームみたいな、課題解決のための仕組み、或いは枠組み、こういったものは私共も実は北の江の島構想で、庁内横断的な庁内委員会を作っていますが、特命という部分ではまだ存在しておりません。ここは少し検討課題とさせて頂きたいと思います。

また一方で、あの町民を巻き込む取り組みということでございますが、あの7月の北海道新聞に3日間連続で掲載されました、うらほろスタイルというものがございます。あれは、子どもを中心とした町づくりを進めていまして、実はその子どもの意見や、或いは発想、それを大人が呼応するというような仕組みで、この根付くまでに10年かかっております。ただこの仕組みが今すごい注目を浴びておりまして、そういったものも、我々二番煎じではありませんが、色々な形で皆さん、官民共同という視点で取り込めるものをちょっと検討して参りたいと思います。

いずれに致しましても、日本遺産、或いは美しい村、戦うフィールド、或いはステージは出来たのですが、戦う武器、或いは術、ここがまだ不足している状態であります。ここを役場内部だけではなくて、町民全体に広げる仕組みを庁内全体で、まずはそこを特命という形で、しっかり議論して参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

(議長)

いいですか。

「西海谷議員」

はい。

(議長)

3問目。

「西海谷議員」

期待しております。

それじゃあ2問目の方に移りたいと思います。

(議長)

2問目。2番目の質問ですね。

「西海谷議員」

はい、2問目です。

空き家・空き店舗調査の調査結果と今後の対策につきまして、ご質問させていただきます。平成28年度に実施致しました空き家・空き店舗調査について、調査の時期とそれと調

査方法はどのように行われてきたのか。また、その調査の結果はどうであったのか。そしてそれらを踏まえ、今後の協議、対策をどう進めていくのか。この辺につきましてご質問させていただきます。

「町 長」
議長。

(議長)
はい、「町 長」。

「町 長」
西海谷議員の2問目、空き家対策調査結果と今後の対策に関してのご質問でございます。
空き家調査につきましては、空き家の管理不全な状態を作らない対策や利活用を図るための制度設計を図ることに繋げるための調査として、平成28年6月から11月の期間で実施し、加えて収集した情報のシステム入力も図ったところでした。調査方法は外観からの目視による判断に加え、場合によっては近隣の住民の方への聞き取りを行いながら、総合的な判断での調査を行って参りました。

結果と致しましては、専用住宅のみならず、併用住宅、共同住宅、倉庫、物置等も含め、空き家の総数が429軒存在している結果であります。その後429軒の空き家の適正な管理の有無を判断する必要性から、軽微な理由も含めた適正管理がされていない家屋267軒と適正に管理されている家屋162軒を大分して参りました。

今後の対策につきましては、冒頭申し上げましたが、空き家の管理不全な状態を作らない対策や利活用を図るための制度設計に繋げるため、関係各課において各々の立場から議論・検討を図るものとして、空き家対策に係る庁舎内の検討委員会を設置したところであり、具体的な対策について協議・検討をしている状況でございます。

調査結果を踏まえ、今後急がれる危険家屋等の特定作業を実施した上で、空き家対策の全体像に結び付けることとしております。

(議長)
はい、「西海谷議員」。

「西海谷議員」
ある一定の調査結果が出ているということと、それに対しての、ある程度仕分けもされていると。適正に管理されている空き家につきましては、やはりあの今後の利活用を期待して、期待したいと思っているところでございますけれども、適正にされていない家屋、特に倒壊等のですね、いわゆる危険家屋という、このことにつきましては早めの対策が必

要と思われます。

解体除去に対し、補助制度を設けている自治体もあり、既に、せたな町では本年4月より、国土交通省の空き家対策、空き家等対策の推進に関する特別処置法に基づき、空き家等除去補助金事業を実施しております。相談件数は33件、特定家屋として20件を許可致しまして、現在6件の解体を実施したそうでございます。確実に効果が現れるということでもございました。

このことにつきましても、江差町として今後検討すべきだと思っておりますが、その辺につきましてもご質問させていただきます。

(議長)

はい、「総務課長」。

「総務課長」

解体に対する助成について、でございますけれども、所有者において解体費用が経済的に圧迫しているということは課題であるということで、承知させて頂いております。

現在、庁舎内の検討委員会を行ってございまして、その中での課題の一つとして位置付けて、議論しているところでございますけれども、単に他の自治体と同様に江差も助成するというだけではなくて、特定空き家の絞り込み作業を、の結果を踏まえながら、取り進めていくというところで、検討委員会の中でも解体助成に対する検討は図っているというところでございますので、ご理解頂ければなという風に思います。

(議長)

いいですか。3番目の質問。

「西海谷議員」

いずれにしても、所有者につきましては、それぞれ理由があつて、なかなか解体できないという資金的なことも含めてですね。そういう意味では1つの選択肢の中のということで、今後検討して頂きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

それじゃ3問目にいきます。

(議長)

答弁は。答弁はいいのですか。

「西海谷議員」

はい。

(議長)

答弁はいいですか。

「西海谷議員」

宜しいです。

(議長)

はい、したら3問目。

「西海谷議員」

3問目、学校給食に対する将来の展望につきまして、ご質問させていただきます。

学校給食組合は、厚沢部町が脱退し、新たに8月1日より江差町・上ノ国町学校給食組合としてスタート致しましたけれども、施設の老朽化、それから一部組合方式の運営方法、それから子育て支援対策等、今後の少子化による児童生徒数の減少等を見据え、将来における学校給食の在り方を2町運営になった今だからこそ、江差町として協議・検討する時期と考えております。教育長の考え方をお聞かせ願います。

(議長)

はい、「教育長」。

「教育長」

学校給食組合の将来展望に対する質問にご答弁を申し上げます。

7月末をもって厚沢部町が脱退し、江差町・上ノ国町学校給食組合としてスタートし、2学期から2町での給食の配食をしているところでございます。当面、2町で一部事務組合方式を継続することとしており、運営方式の将来展望は、現時点では明言できませんが、出来るだけ早い時期に上ノ国町と協議をして参りたいと考えております。

また、児童生徒数の状況につきましては、教職員も含め、現在約1千食程度の食数を提供しておりますが、平成32年度には900食を割り込む見込みでございます。

また、施設の状況につきましては、昭和45年に建設されまして、現在47年が経年しており、給食の提供及び安全安心が維持出来るよう、適宜、維持修繕に努めておりますが、施設の老朽化は進行している状況でございます。衛生面等、現行基準にも、構造上不具合な箇所もございますが、運用面で工夫をしながら対応しているところでございます。大きな課題となる施設の改築につきましては、運営方法も含め、今後、江差町単独ではなく、2町共同での実施を前提に課題を整理しながら、具体的な協議を進めることとしております。

次に、給食費の補助制度について、でございます。江差町では、保護者に対し3分の1

の補助を行っておりますが、これに対し上ノ国町は全額補助の実施をしております。補助金の増額につきましては、十分認識をしておりますが、江差町における子育て対策全体の中で効果や優先度等、総合的に検討し、対応して参りたいと考えておりますので、ご理解をお願い致します。

(議長)

はい。いいですか。

「西海谷議員」。

「西海谷議員」

はい。ありがとうございました。

いずれにしても、2町になりましたということで、私とすれば良い機会と思っております。決して、新しいものを作れとか、それぞれ財政的なこともございますでしょうけれども、やはり効率化を図ってスリムな形での運営方法を考えていって頂きたいと、このように思っておりますので、終わらせて頂きます。

ありがとうございます。

(議長)

いいですか。答弁。

「西海谷議員」

はい。

(議長)

はい。以上で、西海谷議員の発言を終わります。

(議長)

11時25分まで休憩します。

やってもいい。やってもいい。

飯田議員、始めます。休憩しないで。トイレは自由に行ってください。